

## 基金21兆円、届かぬメス

群馬県南西部の神流町。人口約2千人の山あいのこの町は、財政運営を国からの支援金である地方交付税に依存する。交付税の金額は17億円と、税金の10倍に及ぶ。一方、貯金にあたる町が独自に積み立てた基金の残高は52億円。町の年間予算の2倍に相当する。

### バブル並み水準

全国の地方自治体が積んだ基金の総額は、2015年度末に21兆円とバブル期並みの水準に膨らんだ。「自主財源は乏しく、将来への備えも必要

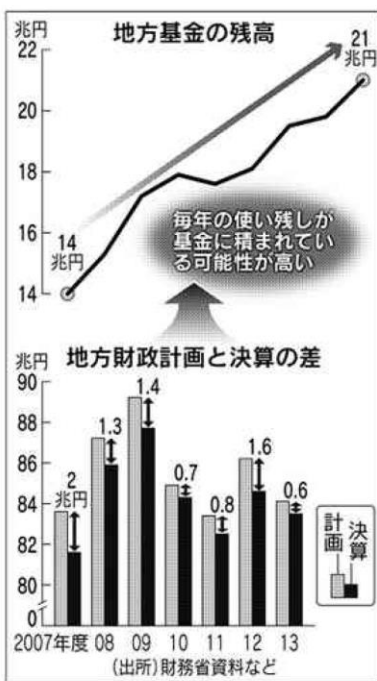
## 地方財政

下

だ。必要経費以外にお金を使えば無駄遣いの批判も受ける」。神流町の担当者はこの説明をする。08年秋のリーマン・ショックの後、税金が見込みを下回り財源不足に陥る自治体が続出。だから平時でも危機に備えて余計にお金を積む。もともとは税金や借金から成る国からのお金でも、防衛本能が先立ち基金へと資金を流す。都道府県レベルでは基金の額は1千億円単位だ。政府の経済財政諮問会議や財務省は盛んに是正を求めているが、改革のメスはそう簡単に患

# 緩い計画70年限界

部には届かない。問題の根深さは、国と地方で予算や配分額を決める仕組みがあまりにもざっくりしている点にある。戦後約70年、連続して「地方財政計画」の作成という枠組みだ。毎年の予算編成の過程で、全国津々浦々の自治



体は「地方全体」という形でひとくくりにし、支出計画をつくる。地方の不足分を交付税で補う。戦後約70年、連続して「地方財政計画」の作成という枠組みだ。毎年の予算編成の過程で、全国津々浦々の自治

「親がお金を借り仕送りに、子はその金を貯金している」。財務省幹部は国・地方の財政の現状を表現する。20年度の基礎的財政収支は経済成長した場合でも、国は13・2兆円の赤字が残るが、地方は4

(飛田臨太郎)